

ミャンマーにAED

NPO救命おかやま

普及目指し贈呈 使い方伝授へ

式除細動器)を贈るため、岡山空港から出発した。救命おかやまによると、同国では初のAEDで、正しい使用方法を伝えて救命率の向上につなげる。

メンバーは氏家良人代表理事(岡山大病院3次救急センター長)、津島義正副代表理事(心臓病センター)榊原病院外科部長・救急部長)、矢敷朝代理事(岡山市立市民病院救急看護部長)ら。ミャンマーに1週間ほど滞在予定で、9日に同国政府関係者に日本製AED1台を贈呈し、医師や医学生らに使い方を伝授する。

心肺蘇生法の普及啓発を行う「NPO救命おかやま」(岡山市北区鹿田町)のメンバー5人が7日、ミャンマーにAED(自動体外

ミャンマーの医療環境向上に取り組むNPO「日本・ミャンマー

医療人育成支援協会」(理事長・岡田茂岡山大名誉教授)の活動に賛同。同国で普及していないAEDを贈ることを決めた。

氏家代表理事は「ミャンマーの医療環境は日本よりかなり遅れている。少しでも貢献で

きれば」としている。

AEDは重症不整脈である心室細動が起きた時に心臓に電気刺激を与え、拍動を元に戻す。音声に従い操作すれば、誰でも容易に使用可能。国内では公共施設などで設置が進んでいる。(内田圭助)